

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472200443
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム さわやか
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字笹畑8番3 (電 話) 0224-84-6505

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 10 月 14 日

## 【情報提供票より】平成20年 9 月 25 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有( 円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 実費 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 83, 8 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険 川崎病院 (内科・外科・歯科)
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者のバックグラウンドを把握するために、一年に一度担当職員が東京研修センター方式の全シートを記載する。それは「一人の人間として、言葉にならない思いを汲み取り、多少無理なことでも努力をしてくれる」「笑顔が多くなった」と、家族アンケートの言葉からも一人ひとりに寄り添って生活を支えていることがうかがえる。散歩がてらの山菜採り、敷地内で収穫した梅や柿で作る梅干・干し柿作り、食後の後片付けの姿は、ホームでの生活がこれまでの生活の延長線上にあることを十分感じることができた。入居者は歌が大好きだということで、歌にあわせた体操を行い、希望による外出に応えられるよう支援を強化している。重度化するなかで一人ひとりの生活意欲を高めていきたいと、理念にそったケアがなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、①運営理念の見直し、②地域とのつきあい、③運営推進会議を活かした取り組み、であった。それぞれの項目を職員で話し合い地域密着型としての理念を作成し、立地条件もありホームのほうからの積極的な地域行事への参加、運営推進会議のメンバーに家族の参加も得られ、会議録も常に目に触れるところに掲示されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議において話し合い、様々な意見が出た。設問をどう捉えたらいいのか難しい部分もあったが、日頃のケアを振り返り、多方面からみる大切さに気づかされたという。日頃迷うこともあったが、自分のなかで理解できた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度から家族の参加が得られ、行政から2名、地域の民生委員・行政区長・法人関係者の参加のもと、2ヶ月に1度開催している。メンバーそれぞれの立場からの意見や思いを聴けるよい機会となっており、今後入居者の参加も望まれる。現在法人の施設で行われているが、ホームですることにより、日頃の様子を見てもらうことも大切かと思われる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月体調面を中心とした「現況報告」と、ホームの様子が分かる「さわやか便り」、担当職員からの一言、金銭管理の出納帳、一人ひとりの写真も添えられ家族に送付される。金銭管理は二人体制で管理し、面会時に確認のサインを貰う。家族アンケートからは家族が不安に思っていることや質問に対して詳しく調べてくれ、通院の介助など柔軟な対応がなされており、家族の満足度は高い。ホームで作った干し柿は、自宅に住んでいた頃のように遠方の家族に送られる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月発行している「さわやか便り」を近隣の方に入居者と共に持参し、日常の買い物に訪れるスーパーにも掲示され好評である。地域との繋がりと立地的に難しい面もあるが、積極的にホームのほうから地域の行事に参加し、昔馴染みの人達と顔をあわせる機会となっている。小学校の運動会、高校生の窓拭き、ハーモニカの演奏などのボランティアの来訪もある。今後、災害時の地域との連携において、地域の消防団との話し合いを検討してみることも一考かと思われる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価を受けて地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の見直しを行い、地域とのつながりをうたった理念を作りあげた。今後ホームの目指すものとして基本的な理念を基に、ホームの状況の変化による見直しもお願いしたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の引継ぎの際職員で唱和している。日々のケアにおいて迷った時など理念を振り返り反省することもあると、実践に活かされていることが職員のヒヤリングからもうかがえた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月発行している「さわやか便り」を入居者と共に近隣の方に配布している。ホームのほうから積極的に町のお祭りや地域の行事に出かけ、その時は昔馴染みの人や地域の方たちが声をかけてくれる。小学校や保育園から運動会などの案内もあり、高校生の窓拭き、ハーモニカの演奏などのボランティアの来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議において話し合い、様々な意見が出た。設問をどう捉えているのか難しい項目もあったが、日頃のことを振り返り、多方面から見る大切さなど気づかされたこともあったという。前回の評価で見出された課題についても検討し、努力をしていることがうかがえた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から家族の参加が得られた。2ヶ月に一度開催しており、メンバーのそれぞれの立場からの意見や思いを聴けるよい機会になっている。今後入居者の参加はもちろん、災害時の地域との連携において地域の消防団との話し合いも検討してみることも一考ではないか。会議のホームでの開催も日常の様子を見てもらうよい機会と思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして福祉課・地域包括支援センターからの参加を得ている。町主催の研修会が法人の事業所で行われ、職員が講師を務めた。制度について分からないことなど相談したり、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調面を中心とした「現況報告書」と、ホームの様子が分かる「さわやか便り」、担当職員からの一言、金銭管理出納帳、一人ひとりの写真も添えられ家族へ送付される。面会時には入居者の良好な面を報告している。金銭管理については面会時に確認のサインをもらうが、金銭に関しては二人体制で管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートから、家族が不安に思っていることや質問に対して詳しく調べて回答してくれるなど、家族の話をよく聴いてくれることがうかがえる。要望があったときには必ず職員に伝え、改善に繋げている。遠慮なく苦情が言える場もあることを、折にふれ家族に説明していただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期的な異動がある。担当者の引継ぎがなされ、入居者には報告をし、お別れ会を行っている。家族にはお便りで報告し、面会に来た時や、電話での報告もなされている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人と地域包括支援センターとのタイアップによる新入職員の研修に参加をしたり、認知症についての勉強会を、職員持ち回りで毎月行っている。外部研修は職員それぞれの段階に応じて受講し、職員会議などで報告がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会の研修への参加、相互評価事業に取り組むなど、サービスの質の向上を目指している。職員は日頃のケアを振り返り、学ぶことも多いという。また、認知症介護実践研修外部実習生の受け入れも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の事前調査で本人の話を傾聴し、入居後も会話・行動記録からベースをつかみ理解し、安心感を持って過ごせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を知ることで出来る事を把握し、尊敬の気持ちを持って声がけし、出来ない部分を支援するという姿勢でケアにあたる。山菜採りやホームで取れた柿や梅で干し柿や梅干作り、干し柿は自宅にいた時と同じように遠方の家族に送る。伝統行事・生活の知恵・心配りなど学ぶことが多く、メモすることもある。入居者から感謝されることはやりがいを感じるという。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日勤の職員が入居者一人ひとりに関して気づいたことをまとめ、「気づきノート」に記録したことを職員間で共有する体制がある。入居者が応じてくれるように、さりげなく声がけをしながら思いや意向を汲み取っている。ホーム内より、外出の車の中などで本人の思いが聞かれることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式の一部を活用し、家族からの情報・本人の思いを基に、毎月の職員会議のなかで意見を出し合い作成している。介護計画は具体的に家族に説明されており、同意を得て渡している。遠方の家族には郵送している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に一度評価を行っての見直しとなっており、あまり意見は出ないが月に一度、入居者・家族の意見を聴いている。状態の変化があれば実情に合わせた見直しを行う。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1日入浴が無い日は個別支援の日としている。入居者の希望による外出を支援し、バックグラウンドを基に担当者が計画を立て、映画や食事に出かけている。通院介助も柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診の際に家族が付き添うときの情報交換は、詳しくなされている。協力医の訪問診療も行われ、直接相談できることで心強い。その時家族が立ち会うこともある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合どこまで見て貰えるのか、家族の不安な気持ちを理解している。重度化・終末期に対する対応方針、意思確認書を明文化し、家族、かかりつけ医との話し合いを進めていきたいとしている。	○	職員間で話し合いを持ち支援方法を検討し、医療機関との連携、早い段階から家族との話し合いを行い、関係者全体の方針の統一を図っていただきたい。そして家族の状況の変化なども考慮しながら対応していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについては同意書を取り交わしている。入居者の個人的な話は居室や事務室で聴いたり、排泄・入浴はプライバシーを損ねない対応を心がけ、基本に忠実に行動することを意識して取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごすことができ、一人ひとりの気持ちにそった入浴や外出の支援をしている。また、同級生だった入居者同士の関係を断ち切ることがないよう、さりげなく見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫したものを取り入れ、調理から後片付けなどそれぞれの力が活かせるよう支援している。誕生会は家族などからも情報を得て好物を用意し、季節ごとの行事食は入居者から教わることもある。食事は一番重要なことであると職員も一緒に同じ食卓を囲んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日の入浴となっており、入居者の希望に添った支援を行っている。拒否する方には職員の連携で気を紛らわせたりしながら、気持ちのよい入浴になるような声かけを行っている。重度化してきた入居者に対する対応を職員間で話し合いながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの有する力を把握し支援することで、役割が自然にできてきた。食後、おしぼりを集める人・ランチョンマットを片付ける人・麦茶を作る人など見事な働きぶりであった。漬物名人、リハビリも兼ねて布を切ったり新聞たみなど行う人もいる。他の人の役割には手を出さないが、重複した場合の対応は、職員の力量で行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの美容室へ出かけたり、映画鑑賞や買い物、ホームの周辺の散歩は四季折々の風景が楽しめ、山菜採りもできる。恒例となっている全員で出かける年2回の「定義山参り」を入居者はとても楽しみにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまで不意の外出はなかったが、見守りを徹底することにより日中鍵をかけることはない。夜間は防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防立会いのもと、併施設との年3回の避難訓練、ホーム独自にマニュアルを作成し、毎月初めには夜勤者と遅番・利用者も参加のもと、夜間を想定した避難訓練も実施している。災害時に備え、非常用食料を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄・水分摂取量はチェック表に記録し、水分は1日1400ccを目安にしている。体重測定は毎月実施し、献立表は法人の栄養士の専門的な観点からのアドバイスを貰っている。一人ひとりの健康状態にあった食生活にも注意を払っていることを家族にも一言あれば、更に安心につながると思われる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花がたっぷり生けられ、居間のソファーには寄り添って座る入居者がいる。楽しみにしている外出の予定表が目につきやすい位置に表示され、お茶の時間には明るい歌声が聞こえてきた。照明や空気のよどみに注意をはらっていることが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇を持ち込まれ、その人らしい居室になっている。入居間もない人がたくさん荷物を持ち込み、ようやく整理がついたとの話もあった。		